

2023年度(令和5年度)ああるまつりかレインボーウイング

【放課後等デイサービス】事業所における自己評価結果（公表）

公表：6年 3月 1日

事業所名 あある まつりかレインボーウイング

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			活動によってグループ分けや活動内容を変えて対応している	スペースを広く使っているが、利用人数や活動内容によっては、グループ分けを行っている
	2 職員の配置数は適切である	6			適切である	今後も適切な人数で行っていく
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	4		階段昇降時は必ず指導員を配置している	今後も外階段を利用する時は必ず指導員を配慮し、利用時の注意点を共有していく
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	6			毎月会議にて行っている	業務改善に積極的に取り組んでいる
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			管理者を中心に改善に向けた会議を行っている	会議等で職員に共有している
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			会社ホームページで公表している	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6			実施している	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			会議等で研修の機会を設けている	
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6			面談を通して立案し、職員全員へ周知している	個別支援計画は職員に周知し、支援計画に沿った対応を行っている
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			個人ファイルで保管している	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	6			職員間で話し合い、支援内容に沿った活動の立案を行っている	取り組んだ内容を記録し、職員間で振り返りを行い、チームでの連携を強化していく
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			毎月活動プログラムを立てている	活動内容を会報にも載せ、保護者の方にも周知し、固定化しないように検討している
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6			祝日・長期休暇は平日と過ごす時間が違う為、設定を変えている	長期休暇は休みに入る前に児童と活動を相談している
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	6			集団活動の中で個別課題ができるような内容作りをしている	同じ活動でも児童によって内容や難易度を変えて取り組んでいる
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			毎日ミーティングを行っている	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6				毎回振り返りを行えない事もあるので、共有事項はその日のうちに職員連絡ツールで共有する
17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			個人記録は必ず記載している	支援内容に沿った記録でないことがある。支援内容に沿った記録をして行くことを心がけていく。	

2023年度(令和5年度)ああるまつりかレインボーウイング

【放課後等デイサービス】事業所における自己評価結果(公表)

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			会議で話し合いをしている	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	6			4原則を意識して活動している	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6				児発管の他、日々関わりのある職員や長く関わって来た職員が参画している
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6			送迎時に申し送りを受けている	必要に応じてケア会議を行うこともある
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	2			非該当
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6			対象児童がいる場合は必ず情報共有している	今後もより良い支援を継続して行けるように必ず共有していく
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6			対象児童がいる場合は必ず情報共有している	今後もより良い支援を継続して行けるように必ず共有していく
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6			日々連携している	連絡を取り合い、児童の様子を伝えたり助言を受けている
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	4			コロナ以降交流が減ってしまった。今後考えていきたい
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5	1			内容によって参加を検討している
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			連絡アプリ、面談を通して共通理解を行う	保護者との共通理解は基本なので、何かあれば必ず連絡を取り合うようにしている
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	2		面談時等に困りごとに対しての具体的な対応を伝えていく	困りごとに対しての対応の仕方以外にも、褒め方・伝わりやすい話し方などを保護者の方に伝えていく
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			契約時に重要事項説明書で必ず保護者に説明している	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			連絡アプリを活用し、必要時は面談を行う	相談があった時は迅速な対応を心がけている
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6			交流会を開催し、保護者同士の親睦を深めた	保護者の方の意見を取り入れ、今後も開催していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6				苦情解決体制はあり、契約時に契約時に保護者にしている。大きな苦情はこれまでに至っていない。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			月に一度、会報を発行している	
	35	個人情報に十分注意している	6			職員全員に周知している	同意書を作成しているが、新しく入った職員もいるため、今一度研修等で周知していく

2023年度(令和5年度)あるまつりかレインボーウイング

【放課後等デイサービス】事業所における自己評価結果(公表)

	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			児童への対処はしている	保護者は現状非該当
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	1			今後検討していく
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6			作成して周知している	今後、マニュアルの読み合わせを定期的に行っていく
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			毎月行っている	実際に災害が起きた事を想定し、緊迫感を持たせて訓練していく
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			研修を行っている	身体拘束の要件など、日々意識しながら療育を行うように心がけている
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6				身体拘束の該当なし
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6			契約時に必ず確認している	該当者なし
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6			毎月の会議で共有している	月ごとにまとめ、よりヒヤリハットを出せるような視点を持てるように会議で話合っている

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。